

—2017—21年度

の中期経営計画で売上高1000億円（16年度見通し比75%増）や自動車エンジン用点火コイル世界一という高い目標を掲げました。

「生き残るための必須条件。当社規模ではトップラインを伸ばさない限り発展はありえない。やると言ったらやる。責任は私だと求めている経営者だ。」

ダイヤモンド電機社長

小野 有理氏

②5

針路

部品メーカー
トップに聞く



点火コイル 技術開発加速

財務状況は改善し、人数人を獲得した。当社なものには工場も含めと技術への投資を再開は日本初の点火コイルで投資する」

品質や稼働率を上げ、世界の各拠点で増強投資も行う。欧州も狙う。安定した生産拠点がハ

「点火コイルはイタリヤにあるが、欧つかの案件が見えていない。ドイツに入る。そこまで辛抱できない。ドイツにる体質も作りつつあ。今春、営業拠点を設ける。経費削減が浸透して打って出る。ドイツの一方、緊張したまま車を押さえないと世界では高く飛べない。51にはなれない」

「エアコン制御機器り、住宅や自動車業界などの受注が拡大してなどに貢献できる。4いる。新規の蓄電池向 月に80周年を迎える。け事業では制御やパワ 100年に向けて走るコンにも力を入れておきつけたい」

本領発揮し世界の頂へ

記者の目

近年、経営が混乱していたが、16年に経営陣を刷新。戦える体制整備に向け、新経営陣は奔走している。同業重鎮は「恐れることなく、やるべきことをやっている」と高評価だ。同社の点火コイルは世界シェア5位グループ。世界一のハードルは高いが本領発揮を期待したい。（大阪・松中康雄）